

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第101号

令和1年12月10日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

11/24 下田原集会所で3世代交流イベント
ポスターセッション第2弾 11/17に湊川神社で

＝ 楠正行の顕彰活動、各地で開催・第99号続編 ＝

11月17日 湊川神社でかるた大会

● 一人で20人以上の人と交流した学生も ●

11月17日(日)、神戸市湊川神社で、大阪電気通信大学の学生15人が制作した「楠正行」のポスターセッション第2弾を開催しました。

今回、四條畷楠正行の会から国府、木村、土井、安井そして扇谷の5人が参加、午前7時50分、ポスターとイーゼルを積んだ車で向かいましたが、阪神高速道路をスイスイと走ることができ、湊川神社には9時前に到着しました。

9時30分に集合となっていた木子先生と学生たちも集まり、湊川神社境内の参道沿いにポスターを展示し、四條畷神社同様、午前10時にポスターセッションを開始しました。

境内には露店も出てにぎやかな中、七五三詣りの参詣者が次から次へと、車や徒歩で、多くの家族とともに訪れ、興味深くポスターセッションに立つ学生たちに声をかけて下さり、質問を受け、意見交換が始まりました。

「ここは正成公を祀っている神社なのに、なぜ?」と、多くの参詣者から楠正行のポスター展示に不思議がる反応を頂き、学生たちは、まず、何故ここ父、正成を祀る神社で、子、正行のポスターセッションをしているかの説明から始



まりました。

大阪電気通信大学と四條畷楠正行の会の産学連携事業は3年目を迎え、4月から講義を受け、現地学習でここ湊川神社、大阪市内の渡辺橋、四條畷市内の小楠公墓所、四條畷神社、和田賢秀墓を訪れて楠正行を学んだことから、正行ゆかりの四條畷神社と正成ゆかりの湊川神社でポスターセッションを企画しました、と。

多忙な中湊川神社、垣田宮司も一枚一枚のポスターをご覧いただき、学生と意見交換をしてくださいました。

「扇谷さん、素晴らしい作品ばかりですね。一人一人の学生の楠正行に寄せる思いがポスターから伝わってきます。」と、嬉しい感想をいただきました。

終盤、一人一人の学生に成果を聞いたところ、ほとんどの学生が5人以上の参詣者と意見交換をし、一人は「20人を超える方とお話しました。」と、誇らしげに語ってくれました。また、或る学生は、「扇谷さん。この授業を通じて多くの事を学びました。特に、一つの事を仕上げることの大切さが分かりました。」と、ポスターセッションで充実感を覚えたようです。

この日は、東京から広木さんが、大阪の友人を誘って訪れ、学生一人一人と熱い議論を交わしていました。また、大阪から、自分を変えたい! 難関を突破したいとの思いでたまたま訪れた男性は、「熱意ある説明に感動し、とりわけ中国人留学生の参加に嬉しくて涙がでそうになった」とフェ





イスブックにアップされています。

ポスターセッションが終わり、片付け後の反省会では、15人の学生の充実した笑顔が印象的でした。4月から学んできた楠正行のポスターセッションが無事終わり、かつ多くの人と生の声でやり取りをする中で、自分の作ったポスターに手ごたえを感じたのでしょう。学生の皆さん、お疲れ様でした。

最後、垣田宮司と鈴木広報室長のお見送りを受け、湊川神社を後にしました。

なお、来年3月2日(月)から8日(日)までの1週間、四條畷市民



総合センター1階で、楠正行ポスター展を開催します。是非、お立ち寄りください。

(写真：表面左から、ポスターセッションで熱心な質問を受ける様子2枚、右/垣田宮司も熱心に鑑賞 裏面上/湊川神社本殿前で記念撮影、下/左から木子准教授・垣田宮司・扇谷・鈴木広報室長)

11/24 下田原集会所で3世代交流事業に参加

● かるたと紙芝居で元気に交流 ●

11月24日(日)、午前10時から下田原集会所で「3世代で交流し地域の歴史を楽しく学ぶ集い」(一般社団法人河内観光局主催)が開催され、四條畷楠正行の会メンバー9名が指導者として参加しました。

この日、下田原子ども会の11名の子どもと、下田原老人クラブ等24名の大人が集まり、かるた遊びと映像スクリーン紙芝居の上映、そして意見交換会を通して交流し、遊びを通して「楠正行」について全員で学びました。

第1部の「楠正行かるた」を使ったかるた遊びは、子どもと大人の混合チーム6班に分かれて予選会が行われ、字



札を読む声に耳を傾けながら、最初の言葉が聞こえると、間髪を入れず「はいー!」と元気な声で絵札を取る子もいれば、班によっては、なかなか絵札を見つけることができず、かなり遅れて「はいー!」と声が響くことも。

「はいー!」とせっかく絵札に手を置いたのに、お手つきする子も現れ、笑顔あふれる和やかな雰囲気の中にも、一人一人、絵札を取ろうと真剣に見つめる緊張感も漂い、会場がシーンとなる時も何度もありました。

表彰式では、優勝者に「楠正行かるた」が贈られ、私たちの会から、各班で予選トップだった子どもたちには大判の絵札を、そして参加した子ども全員に小冊子「親孝行のまち四條畷 楠三兄弟物語」を贈りました。

● アンコールで、嬉しい3回戦も ●

次に、2部のスクリーン映像紙芝居「楠正行の生涯」に入ろうと、司会の扇谷がアナウンスを始めると、



「もう一回、かるた取りがしたい。」「私も一、したい!」と、複数の女の子から声が上がリ、急遽、次第を変更しての子どもたちだけのかるた取りという事になりました。

女の子と男の子に分かれての競技となりましたが、本当に楽しそうにかるたをとる子どもたちの笑顔や、取れなかった時の悔しそうな顔を見ながら、周りの大人全員が元気をもらいました。

そして、紙芝居上映に続き、第3部は、最初の6班に戻って、私たちの会のメンバーが進行役となって各班での意見交換会です。

どの班も、大人と子どもが一つになって、今日のかるた遊びの事や地域の歴史や文化の話に花が咲いたようです。

ホールを出てきた子どもたちに尋ねて見ると、「今日は楽しかった。」「また、来年もして欲しい。」と、嬉しい反応が返ってきました。

東市長、植田教育長も応援に駆け付け、「地域のお年寄り子どもたちの、笑顔あふれる素晴らしい交流の場ですね。皆さんの顔が生き生きと輝いています。」と、嬉しい感想が聞かれました。(写真：上/記念撮影 下/真木さんの字札読みに合わせてかるた取り) (文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭)